

拝島ネギの魅力次代へ

昭島市の食育授業に協力
鈴木寿昭さん

【東京みどり】昭島市の鈴木寿昭さん(45)は、同市で栽培されている江戸東京野菜「拝島ネギ」の普及活動に力を入れている。

鈴木さんは2月下旬、江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂代表と共に、同市立中神小学校の児童らに「拝島ネギ」の播種(はしゆ)指導を実施。鈴木さんの母校である同校からの依頼を受け、若い世代に関心を持ってもらおうと食育授業に協力した。

児童らは「拝島ネギ」の特徴や播種のポイントなどを学習。今

に加え、ミニトマト「イエローアイコ」やルビーラッシュ」に挑む庭先直売所の常連客ら「薦められた新しい菜もおいしかった」とを掛けられ、喜びにつかっている。

さらに、情報発信にもを入れようと2021年5月、写真動画投稿アプリ「インスタグラム」開設。取れたて野菜の真を添えて、栽培品種

又蓮寺明、庭先直売所

後は、苗をプランターから校内の畑に定植し、畝掘りや土寄せなどを体験する予定だ。

鈴木さんは「若い世代に地域の農産物の魅力を感じてもらい、後世につないでいければうれしい」と話す。

大竹さんは「今回の授業をモデルケースに、市内他の小学校でも地域の特産品について学ぶ授業を行っていきたい」と話す。

「拝島ネギ」は古くから同市で栽培され、熱を加えると甘味が増すのが特徴。1998年までは市場に出荷していたが、身が柔らかく栽培が難しいことから一時期は生産者が3、4人ほどまで減った。その後、市内生産者や市の協力もあり、徐々に生産者が増加。現在は生産者が一丸となり、保存・普及に努めている。



児童らに「拝島ネギ」の播種を指導する鈴木さん(左手前)と大竹さん(左奥)